

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

209

戦略的な投資

シンガポールは東南アジア諸国連合（ASEAN）の中でも群を抜いて科学技術レベルが高い国である。国土が狭く資源に乏しい上、人口も少ないことから、知識駆動型の経済の構築が政策的に推進され、そのため人材確保に向け戦略的な投資が行われてきた。

シンガポールの国家研究財団（NRF）は科学技術政策の立案と推進を担う中核的な機関である。その管轄は幅広く、研究開発の助成、研究者への授賞、人材誘致などを含む。今回はこのうち人材誘致策

者などのトップ研究者だけでなく、シンガポールからレクチャーを受け、親しく交わる機会が与えられるものであった。実際、会期中には同国の研究所や施設、今年32カ国106機関からさまざまな分野の研究者が約400人を参加した。GYSSを創設したNRF会長（当時）のトニー・タ

今年32カ国106機関からさまざまな分野の研究者が約400人を参加した。GYSSを創設したNRF会長（当時）のトニー・タ

今年32カ国106機関からさまざまな分野の研究者が約400人を参加した。GYSSを創設したNRF会長（当時）のトニー・タ

について取り上げる。

NRFは毎年1月に

グローバル・ヤング・サイエンティスト・サ

ミット（GYSS）を

開催している。これは

（当時）のトニー・タ

ン博士によれば、開催

目的は若手研究者が国

際的なネットワークを

集し、ノーベル賞受賞

を広げるための場づくり

ばれた若手研究者が5

同様のフェローシッ

プをシンガポール国立

大学、南洋理工大

学、

ASEAN地域の科学技術動向

7

シンガポール、若手人材誘致



科学技術振興機構（JST）シンガポール事務所所長

金子 恵美

政策研究大学院大学地域政策プログラム修了。JST入職後、国際事業、科学コミュニケーション、ダイバーシティ推進、監査業務などを経て19年より現職。日本と東南アジアの国際共同研究推進などに従事。



グローバル・ヤング・サイエンティスト・サミット（GYSS）の一幕

ASEAN諸国（科学技術研究庁）などの有力大学や研究所で独立して研究を実施できるといふものである。1人当たり250万シンガポールドル（約2億5000万円）と30%の間接経費が支給されるという非常に魅力的な内容となっている。世界中から毎年数百人の応募があり、10人前後が受給している。

同様のフェローシップをシンガポール国立大学、南洋理工大

ASEAN諸国（科学技術研究庁）などの有力大学や研究所で独立して研究を実施できるといふものである。1人当たり250万シンガポールドル（約2億5000万円）と30%の間接経費が支給されるという非常に魅力的な内容となっている。世界中から毎年数百人の応募があり、10人前後が受給している。

同様のフェローシップをシンガポール国立大学、南洋理工大